

第14回「歩いて楽しいまちなか戦略」推進会議 概要資料

1 これまでの取組経過

- 平成22年10月に「歩いて楽しいまちなか戦略」推進会議を設置以降、歴史的都心地区（四条通、河原町通、御池通及び烏丸通に囲まれた地区）における安心・安全で快適な歩行空間の確保と賑わいの創出を目指し、「四条通歩道拡幅事業」や「歩いて楽しいまちなかゾーン」の整備など、様々な事業に取り組んできました。

2 まちなかの現状について

- 歩道整備後～令和元年まで、まちなかの各通りの歩行者数は整備前比で約3割増加。併せて、周辺の鉄道駅の乗車人数も年々増加しており、人中心の賑わい空間として発展を続けてきました。
- しかし、新型コロナウイルス感染症の影響が出始めた令和2年以降、まちなかの歩行者数は減少しており、令和2年11月～令和3年10月の歩行者数は令和元年の3分の2程度にまで落ち込みました。
- 四条通の1日あたりの交通量も、令和元年度比で約1,800台減少。その一方で、四条通を走る市バスの平均運行時間は、秋の観光シーズン（10、11月）には設定時間（15分）を超過しており、引き続き、観光シーズンにおけるまちなかへの車両流入抑制対策が必要と考えられます。

3 令和3年度の各取組（抜粋）

(1) 物流問題に取り組む商店街の事例紹介【フリーペーパー（Leaf mini）の活用】



錦市場商店街では、荷捌き可能な駐車場といった物流の専用空間を確保し、市民の皆様（またはお客様）と物流業者の導線を分けることで、まちへの物流負荷を減らす取組を行っています。

また、商店街のオンラインショップを事務局が運営し、店舗ごとに発送するのではなく、各店舗が受注した商品を事務局が集荷し、一括で発送することで、配達員の負担軽減を図っています。（参考：Leaf mini50号 P16～17）

(2) 公民連携事業「KYOTO CITY OPEN LABO」を活用した啓発

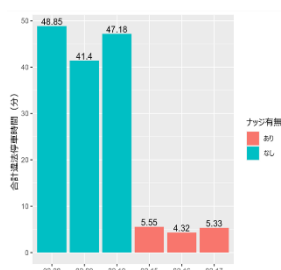
【行動変容を促すデザイン看板の設置】



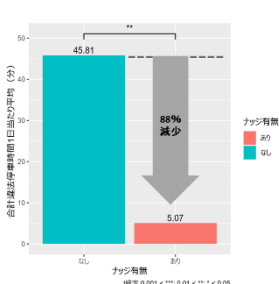
行動経済学のノウハウを持つ民間企業と連携し、行動経済学の知見（ナッジ※）を活用してタクシー利用者や運転手により良い行動を起させるような啓発物を設置しました。

※ 選択肢の制限（禁止や罰金）をせずに、人間の意思決定特性（認知バイアス等）を踏まえた「ちょっとした工夫」で、人々の行動に変化を起こす手法。

＜日別＞ 合計違法停車時間(分)

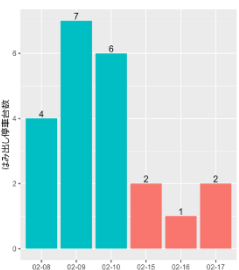


＜平均＞ 合計違法停車時間(分)

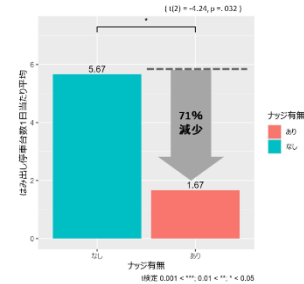


効果測定結果（四条河原町交差点）

＜日別＞ はみ出し停車台数



＜平均＞ はみ出し停車台数



効果測定結果（高島屋前タクシー乗り場）

設置前後で効果測定を行ったところ、四条河原町交差点では違法停車台数が4割減少、また、違法停車時間も約9割減少するなど、大きな効果が得られました。また、各タクシー乗り場においても、はみだし停車台数が最大7割減少しており、タクシー運転手の行動変容に大きく寄与していると言えます。（詳細：資料本編 P28～P31）

4 今後の取組方針について

- 人と公共交通優先のまちづくりを進めるため、京都市では「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定していますが、策定から10年以上が経過し、交通をめぐる情勢が大きく変化していることから、今年度改訂を行いました。
- 「歩くまち・京都」の実現に向けて、本会議においては主に「誰もが『出かけたくなる』歩行者優先の魅力的なまちづくり」に関する取組を推進し、物流WG、タクシー駐停車マナー向上マネジメント会議、四条通エリアマネジメント会議といった下部ワーキンググループにおいて具体的な取組を進めてまいります。